

イー・アクセス株式会社 【9427】

2006年3月期第3四半期決算説明資料
(2005年4月 ~ 2005年12月)



2006年2月7日

I. 2006年3月期第3四半期決算の総括

3 ページ

II. 2006年3月期第3四半期決算の詳細

7 ページ

III. 事業展開

14 ページ

IV. 今後の取組み

27 ページ

I. 2006年3月期第3四半期決算の総括

3 ページ

II. 2006年3月期第3四半期決算の詳細

7 ページ

III. 事業展開

14 ページ

IV. 今後の取組み

27 ページ

**ADSL
ISP
事業**

サービスエリアの拡大及び販売チャネルにおける需要増により、
加入者純増数は第2四半期を底に回復基調

解約抑止策が功を奏し、解約率は3四半期連続減少

**モバイル
事業**

1.7GHz帯における3G携帯電話免許を取得
商用サービスに向け準備を開始

TBS、GS等からの出資により878億円を調達

財務

解約率の改善、ADSL・ISP事業のシナジー効果による
コスト削減が寄与し、今年度業績予想を上方修正

2006年3月期第3四半期実績

ISP事業の収益貢献によりADSL・ISP事業は増収増益(営業利益)を達成
連結ではモバイル費用が発生したものの、営業利益率は13.6%と高い水準を維持

(単位：億円)	2005年3月期	2006年3月期			前年同期比(%)	
	第3四半期 (2004/4 - 12)	第3四半期 (2005/4 - 12)				
	ADSL・ISP (非連結)	ADSL・ISP	+ モバイル	= 連結	ADSL・ISP	
売上高	424.5	455.0	-	455.0	+30.5	+7.2%
営業利益	72.7	76.0	14.3	61.7	+3.3	+4.5%
経常利益	65.1	64.7	17.5	47.2	0.4	0.6%
当期純利益	74.7	50.2	17.5	32.7	24.5	32.8%
EBITDA	158.8	157.8	13.9	143.8	1.0	0.6%
設備投資額	73.6	47.2	1.0	48.2	26.4	35.9%
減価償却費	89.1	82.1	0.4	82.5	7.0	7.9%

当期利益の減少は今年度より税金の支払いが発生したため

2006年3月期通期業績予想

解約抑止と継続的なコスト削減により、通期業績予想を上方修正

	2005年 3月期末	前回 (11/8) 業績予想 2006年3月期 (連結)			今回 (2/7) 業績予想 2006年3月期 (連結)		
	ADSL・ISP (非連結)	ADSL・ ISP	モバイル	連結	ADSL・ ISP	モバイル	連結
(単位：億円)							
売上高	579.1	595.0	-	590.0	595.0	-	595.0
営業利益	93.1	96.0	24.0	72.0	102.0	23.0	79.0
経常利益	80.7	82.0	27.0	55.0	88.0	27.0	61.0
当期純利益	93.5	59.0	27.0	32.0	64.0	27.0	37.0
EBITDA	209.3	204.0	24.0	180.0	209.0	23.0	186.0
設備投資額	97.8	82.0	13.0	95.0	75.0	10.0	85.0
減価償却費	119.3	108.0	0	108.0	107.0	0	107.0

ADSL事業とISP事業のシナジー効果などにより、コスト削減が寄与し、利益を上方修正

解約抑止策が功を奏し売上を上方修正

I. 2006年3月期第3四半期決算の総括

3 ページ

II. 2006年3月期第3四半期決算の詳細について

7 ページ

III. 今後の事業展開について

14 ページ

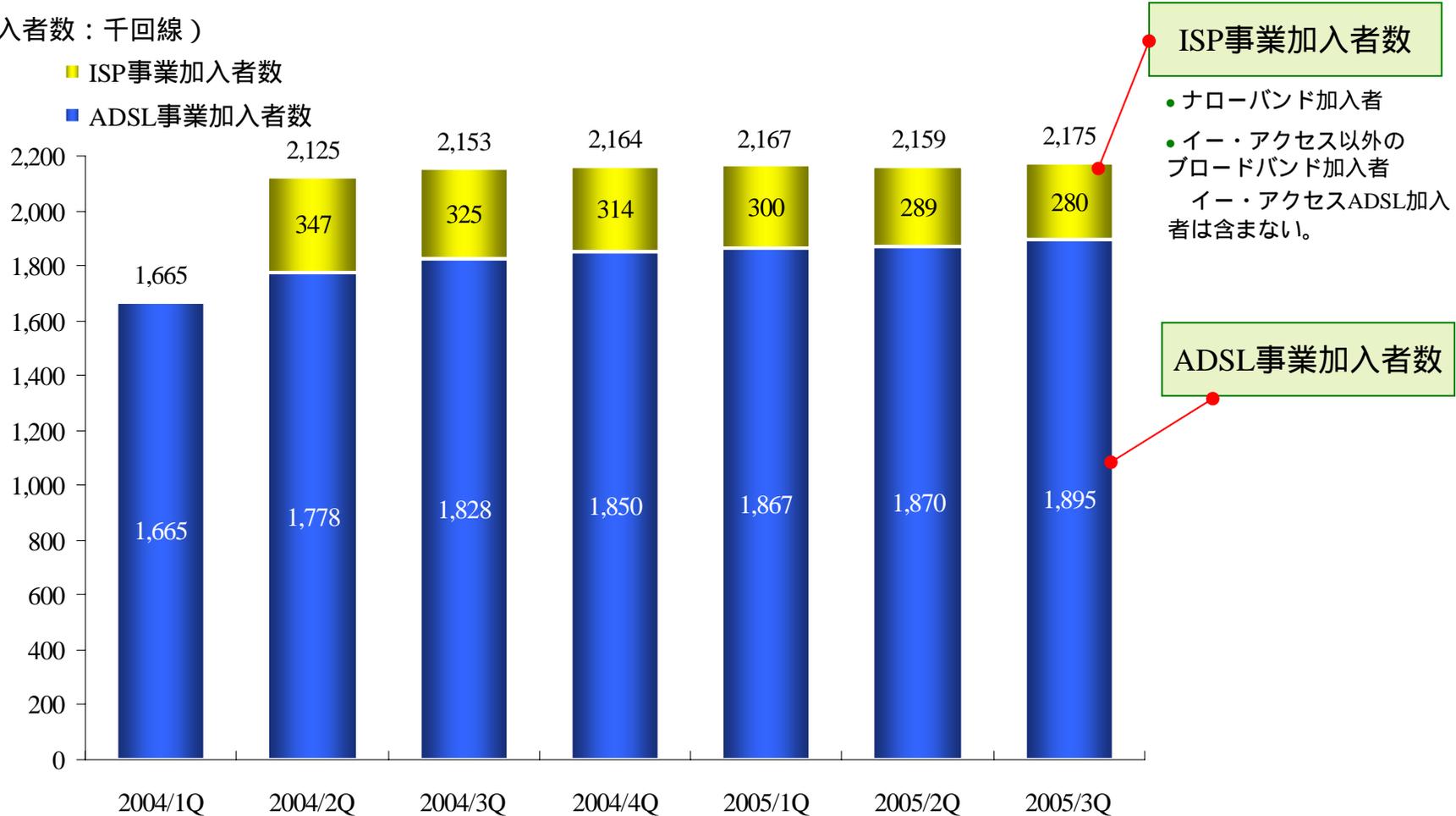
IV. 今後の取組み

27 ページ

加入者数の推移

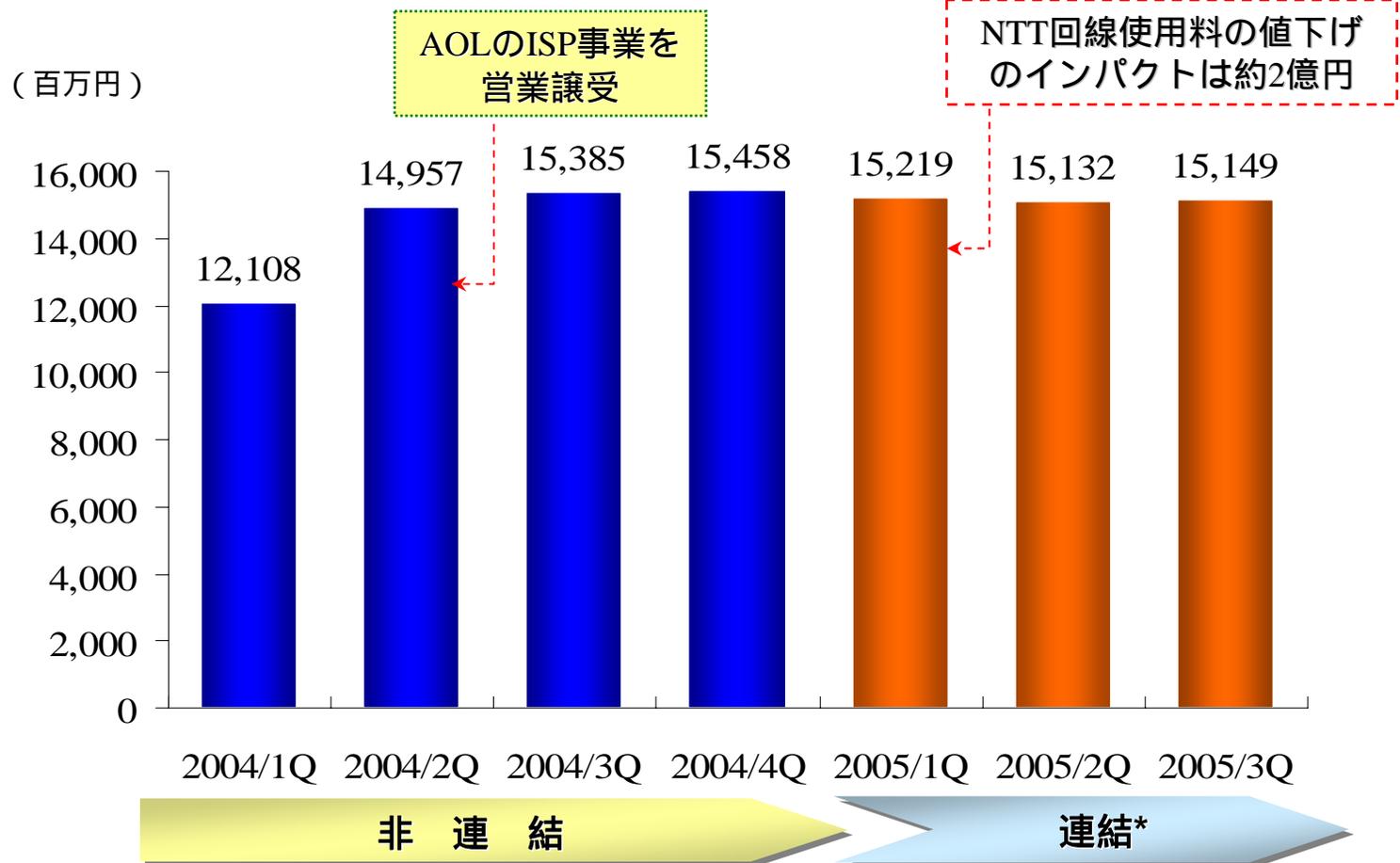
エリア拡大と販売チャネルにおける需要増により
3Q加入者純増数は25,000回線（今期最大）と2Qを底に回復基調

（累計加入者数：千回線）



売上高の推移

売上高は加入者純増数の回復に伴い2Qと比較して微増

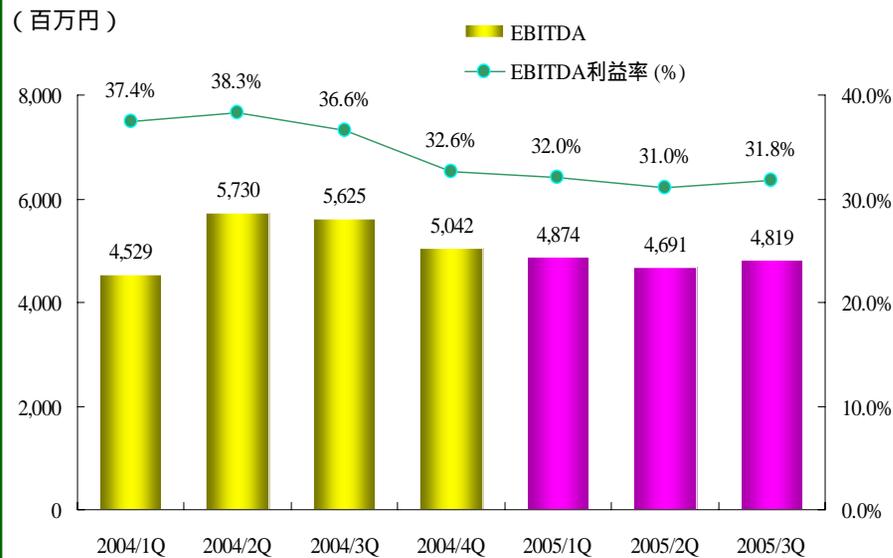


* 平成18年3月期中間期における子会社イー・モバイルの資本増強及び携帯免許申請に伴い重要性が増したため、平成18年3月期中間期から連結財務諸表を作成しております。平成18年3月期第1四半期においては連結財務諸表を作成していませんでしたが、四半期推移の情報として掲載しております。

EBITDAの推移

連結ではモバイル事業の立ち上げ費用が発生したものの2Qからは若干改善
ADSL・ISP事業のEBITDA利益率は高水準を維持

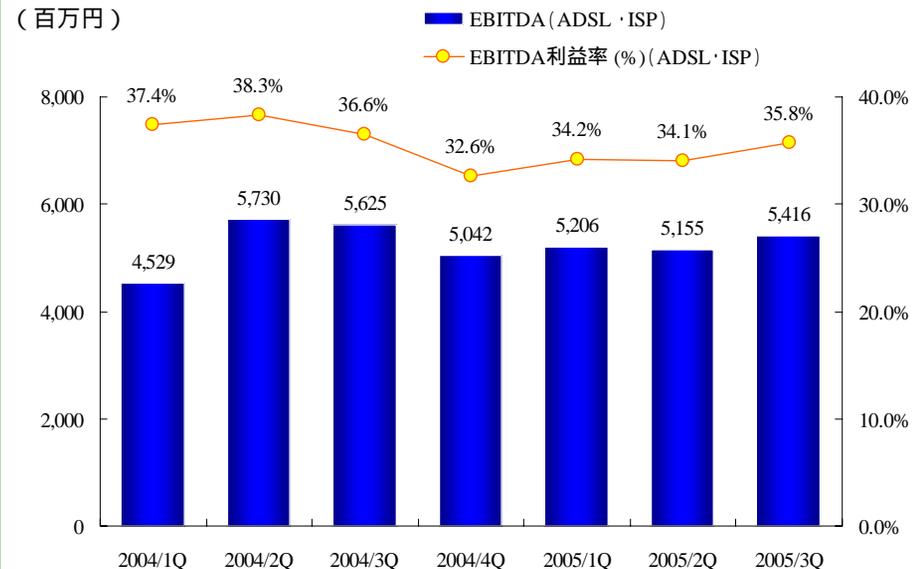
EBITDA及びEBITDA利益率の推移 (連結)



非 連 結

連 結*

EBITDA及びEBITDA利益率の推移 (ADSL・ISP事業)

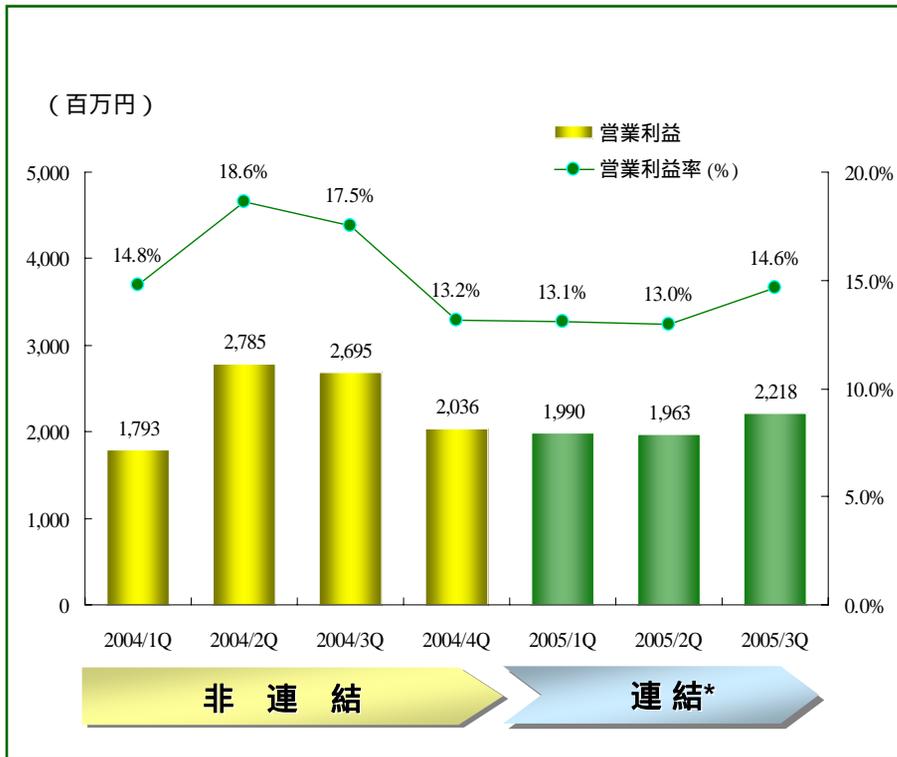


* 平成18年3月期中間期における子会社イー・モバイルの資本増強及び携帯免許申請に伴い重要性が増したため、平成18年3月期中間期から連結財務諸表を作成しております。平成18年3月期第1四半期においては連結財務諸表を作成していませんでしたが、四半期推移の情報として掲載しております。

営業利益の推移

継続的なコスト削減がモバイルの立ち上げ費用を吸収し、
連結、ADSL・ISP事業ともに営業利益が改善

営業利益及び営業利益率の推移 (連結)



営業利益及び営業利益率の推移 (ADSL・ISP事業)

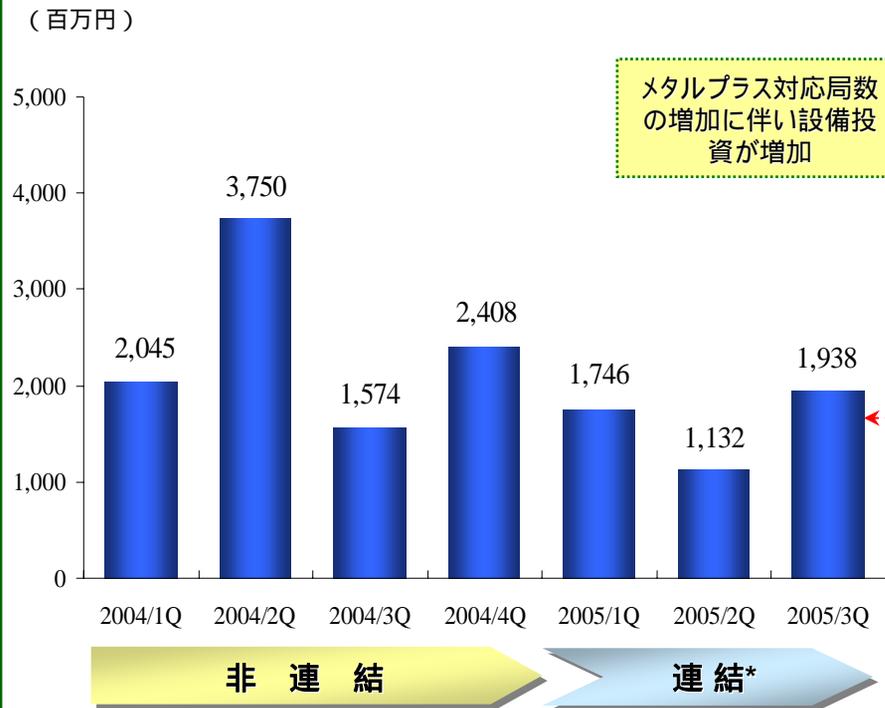


*平成18年3月期中間期における子会社イー・モバイルの資本増強及び携帯免許申請に伴い重要性が増したため、平成18年3月期中間期から連結財務諸表を作成しております。平成18年3月期第1四半期においては連結財務諸表を作成していませんでしたが、四半期推移の情報として掲載しております。

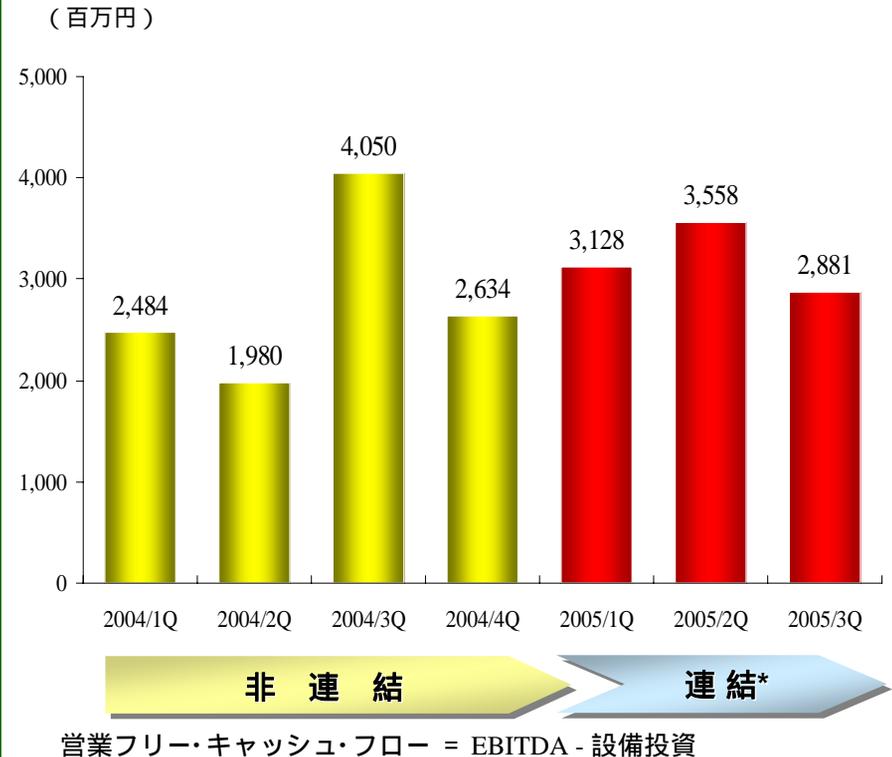
設備投資と営業フリー・キャッシュ・フローの推移

エリア拡大に伴い3Qの設備投資は当初の計画通り2Qから増加
第4四半期も引き続き増加予定

設備投資額の推移



営業フリー・キャッシュ・フロー*の推移



*平成18年3月期中間期における子会社イー・モバイルの資本増強及び携帯免許申請に伴い重要性が増したため、平成18年3月期中間期から連結財務諸表を作成しております。平成18年3月期第1四半期においては連結財務諸表を作成していませんでしたが、四半期推移の情報として掲載しております。

バランスシートの状況

3Qのイー・モバイルの資金調達の結果、連結現預金残高は1,500億円に増加
ネットキャッシュは2005年3月末から450億円増加し、532億円となる

	<非連結> 2005年3月末		<連結> 2005年12月末	
	期末残高	総資産に対する比率	期末残高	総資産に対する比率
(単位：億円)				
現預金残高	1,047.7	77.6 %	1,501.5	82.6 %
有利子負債	965.6	71.5 %	968.9	53.3 %
純有利子負債	82.1	--	532.5	--
少数株主持分	--	--	424.1	23.3 %
資本合計	284.8	21.1 %	304.3	16.7 %
総資産	1,349.9	100.0 %	1,816.9	100.0 %
純有利子負債/資本比率	28.8 %	--	175.0 %	--

イー・モバイルの少数株主持分

イー・モバイルの資金調達によりネットキャッシュが増加

I. 2006年3月期第3四半期決算の総括 3 ページ

II. 2006年3月期第3四半期決算の詳細について 7 ページ

III. 今後の事業展開について 14 ページ

IV. 今後の取組み 27 ページ

ADSL・ISP事業

エリア拡大及び加入者獲得の状況

エリア拡大・販売チャネルにおける需要増により加入者の獲得が徐々に回復

エリア拡大

- サービスエリア拡大に伴い、3Qに開通が加速。メタルプラス対応エリアも2005年9月末の800局から2005年12月末は1,000局に拡大。
- サービス提供は2005年3月末の975局から2006年3月末までに約1,400局（メタルプラス対応局を含む）まで増局予定。これに伴い、上期に比べ3Qから設備投資額が大幅に増加。

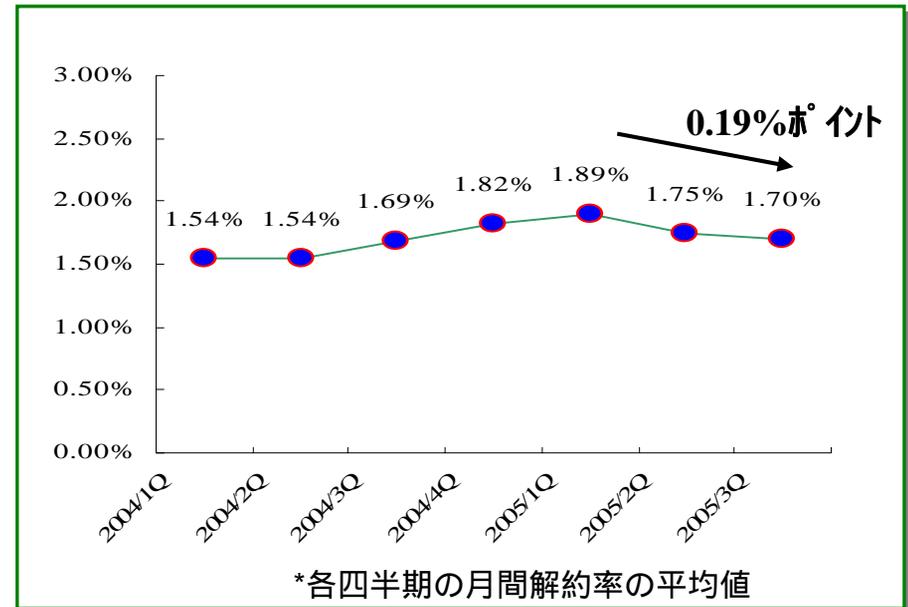
販売の状況

- 当社最大の直販チャネルのひとつであるヨドバシカメラ大型店のAkiba店、横浜店の新規オープンにより、加入者の獲得が好調。
- 昨年11月10日よりメタルプラス10Mサービスを開始し、加入者獲得を牽引。

解約率は解約抑止効果により3四半期連続して改善

- ▶ 解約抑止策を継続して実施
 - 移転手数料無料
 - 回線クラス変更手数料無料
 - カスタマサポートによる解約抑止
- ▶ 月間平均解約率は引き続き改善
2Q : 1.75% 3Q : 1.70%
- ▶ 4Qは季節要因（3～4月の引越し等）
により解約率は上がる傾向にある

月間解約率の推移 *



ISPメニューの拡大

ISPとの連携強化によりサービスの充実を目指し
ダイヤルアップユーザーの移行を促進

ODN

NEW

- ▶ 最速である50Mサービス2月15日から提供開始

So-net

NEW

- ▶ 2005年10月に50Mサービスの提供を開始
- ▶ 量販店での加入者獲得が好調

DION

NEW

- ▶ 2005年11月にメタルプラス10Mサービスを開始
- ▶ メタルプラス対応エリアが順調に拡大

Nifty

- ▶ エントリーコース960Kの独占販売を開始。Webでの申し込みが好調
- ▶ ダイヤルアップユーザー向けにTM/DMを実施

NEW

新生 DTI

- ▶ 10月1日にブランド統合を行ったDTI・POINTにおいて、コンペの結果、ADSLサービスの優先販売権を獲得

販売チャネルの活用

既存の販売チャネル（ヨドバシカメラ、コジマ）を生かし、新サービスを提供

サポートサービスの提供

- ▶ 量販店におけるOA機器の販売に伴うサポートサービスの提供を開始。

ヨドバシカメラ
テレフォンサポート

1ヶ月間24時間
電話サポート体制
出っ払いにはいつでもつながる「ホットライン」!!

主要メーカー
全社対応で
さまざまな
ご質問にお答えします!

パソコン・プリンタは
もちろん、
無線LAN・デジカメも
OK!

電話で解決できない
トラブルも
出張サポートで
解決します!! (有償)

こんなサポートが
ぜんぶついて **¥1,980 (税込)**

証券口座取次ぎサービス

- ▶ 量販店において、対面チャネルの強みを活かし、オンライン証券のプロモーションを行い口座開設資料請求の取次ぎを実施。

コジマ
ブロードバンドコンテンツ
キャンペーン 第1弾 開催中

インターネットで
株
スタート!

当店にて
資料請求
¥0

70-70がアフィリエイト

誰でもできる!!
インターネットで株取引
無料サポートタイムはいつでも
無料サポートです!

24時間リアルタイムサポート 無料

まとめてラクラク
資料請求 **¥0**

ISP事業 (AOL)への取組み

コンテンツ強化の取組み

- Googleと更なる協業について検討中
- コンテンツのマネタイズ強化に伴い、広告・ECの収入は徐々に増加。
- AOL DIARYの強化：ブログトーク機能の追加（12月末から開始）により利用の活性化を図り、AOL DIARYの月間PVが昨年度末と比較し、3倍に増加。

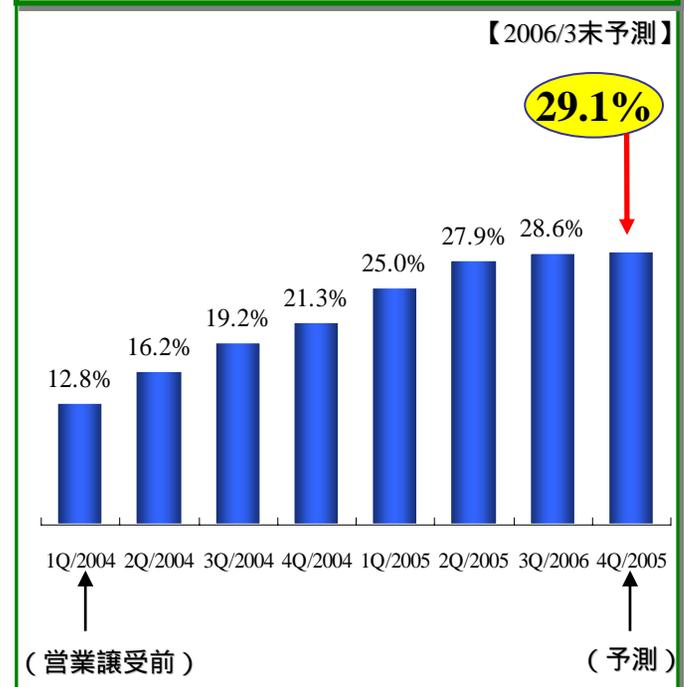
利益重視モデルへの転換

- ネットワーク構造や販売チャネルの見直し、ADSL事業とのシナジー効果などにより、コスト削減を実施。AOL事業の利益率は着実に増加。

AOLのブロードバンド比率

- 2005年12月末のブロードバンド比率は28.6%となり、2005年3月末から7.3%ポイント上昇。

AOLブロードバンド比率



モバイル事業

免許取得

- 2005年11月10日に1.7GHz帯周波数の全国バンドを取得。

資金調達の 進捗状況

- イー・モバイルの株式発行による資金調達を実施し、12月末までに878億円を調達。年度末までに、更なる資本増強を図り財務基盤を強化。
- 資金調達計画は順調に進捗。

NW構築の 準備状況

- ベンダー選定、セル設計、置局交渉を開始。
- 商用サービスに向け、都心部でのパイロット局の建設作業に着手。

端末の 準備状況

- 国内外の端末及びチップメーカーと商用化に向け協議中。
- 次世代携帯電話のコンセプトモデルを紹介。

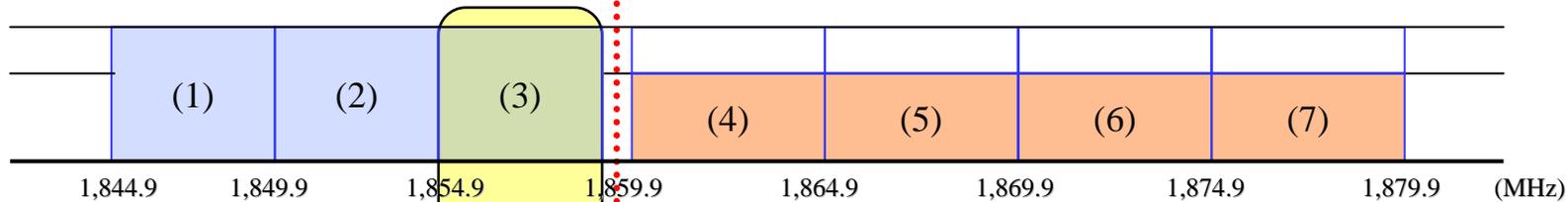
携帯電話の免許を取得

2005年11月に1.7GHz帯の全国バンドを取得。商用サービスに向け準備を開始。

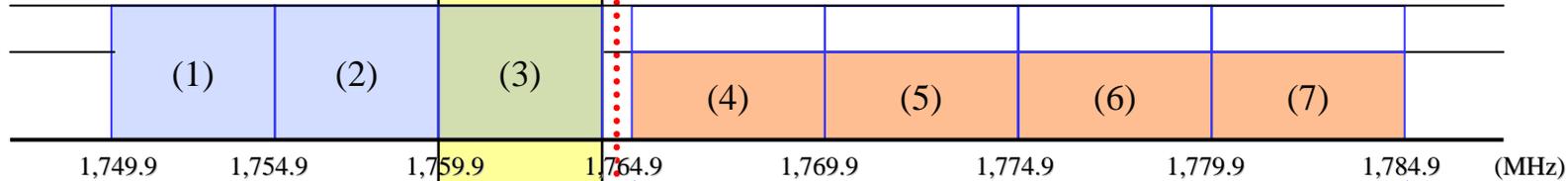
【全国バンド】

【東名阪バンド】

基地局用
周波数帯



陸上移動局用
周波数帯

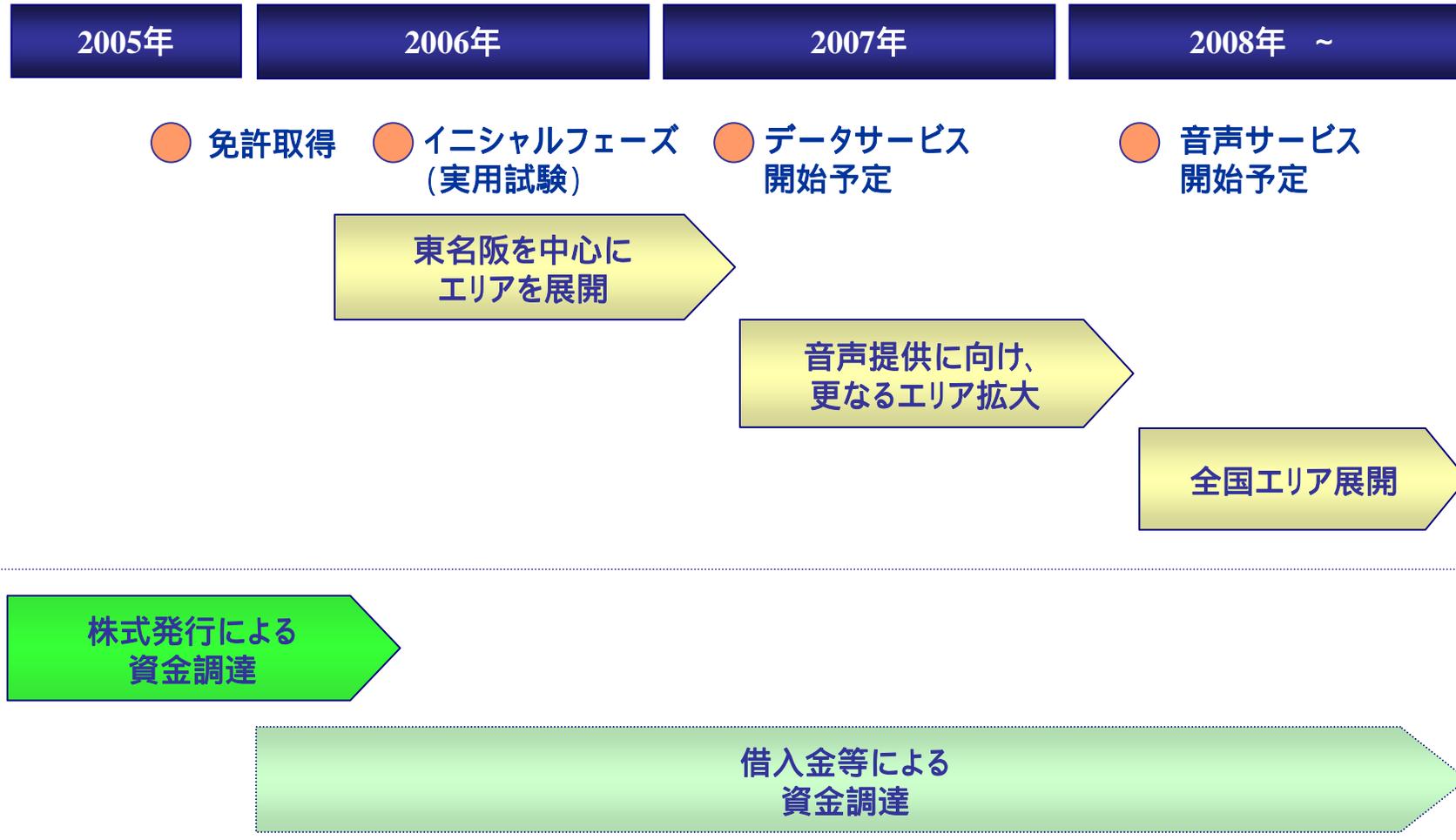


新規・既存を問わず、周波数の
ひっ迫に応じ、5MHz幅ずつ割当

特定基地局の配置および開設（免許要件）

1. 運用開始の時期：少なくとも一の特定基地局について2年以内に運用を開始する
2. カバー率：
 - （全国バンド）5年以内に人口カバー率で5割以上の特定基地局を配置
 - （東名阪バンド）3年以内に人口カバー率で5割以上の特定基地局を配置

事業展開スケジュール（予定）



イー・モバイルの資金調達状況

TBS、米GSなどからの増資により878億円の資金調達を完了。

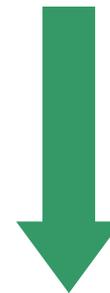
株式発行による資金調達

	金額	持分%
	453億円	58.1%
米ゴールドマン・サックス 	275億円	26.4%
TBS	100億円	9.6%
吉本興業及びその他	50億円	5.9%
計	<u>878億円</u>	<u>100.0%</u>

1,000億円

借入金等による資金調達

銀行
リース会社



2,000 ~ 3,000億円

次世代携帯電話端末コンセプト

One Segment Broadcasting Model

「ワンセグメントブロードキャストモデル」

- * 2.8インチの大画面液晶で存分に映像を楽しめるワンセグ放送対応モデル
- * タッチパネルで概観をすっきり
- * 高音質ステレオスピーカーで音楽も楽しめる



Slim & Compact Model

「スリム&コンパクトモデル」

- * 薄型 / 軽量 / コンパクトでスタイリッシュに
- * ハードキー + タッチパネルで使いやすく
- * 革質感のベージュ、木目調の茶、メタリックシルバーの洗練されたデザイン



Data Communication Model

「データコミュニケーションモデル」

- * 液晶画面、ファンクションキーがついたPCデータカード
- * 音声通話も可能
- * PCとの親和性に優れた「どこでもモバイルオフィス」の環境を提供



Core Module Model

「コアモジュールモデル」

- * 小型軽量で通信機能だけに特化
- * カーナビ、ミュージックプレイヤー、自動販売機、家電製品などに高速データ通信機能を提供する組み込みモジュール



I.	2006年3月期第3四半期決算の総括	3 ページ
II.	2006年3月期第3四半期決算の詳細について	7 ページ
III.	今後の事業展開について	14 ページ
IV.	今後の取組み	27 ページ

今後の取組み

ADSL・ISP事業

<ADSL事業>

- 顧客基盤の強化に向けた取組み
 - 4Qの解約率上昇を最小限にとどめる
 - エリア拡大を着実に実施し、加入者の利便性を高める

<ISP事業(AOL)>

- コンテンツの充実を図り、更なる収益寄与を目指す

<その他>

- 販売チャネルを活用したサポートサービスやオンライン証券口座取次ぎなどを積極的に展開する

モバイル事業

- 商用サービス開始に向けたNW構築の準備を着実に進める
- イー・モバイル株式会社の株式調達を実施し、借入金等の準備を進めることにより、財務基盤の強化を図る。

本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性に関する責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。ここに示した意見は、本資料作成日現在の当社の意見を示すのみです。当社は、本資料中の情報を合理的な範囲で更新するようにしていますが、法令上の理由などにより、これをできない場合があります。